

さくらサイエンスプログラム オンライン大学訪問く広島大学

科学技術振興機構(JST)は1月21日、広島大学との共催により、第20回さくらサイエンスプログラム「オンライン大学訪問く広島大学」を開催した。同イベントは、JSTが海外の高校生・大学生にオンライン疑似訪問体験を提供し、日本の優れた大学について彼らの関心を高め、日本留学への意欲を高めてもらうことを狙いとして実施している。

金子慎治副学長(グローバル化担当)より歓迎の挨拶があった後、川合紀宗教授(大学院人間社会科学研究科)より、同大の創立の歴史や3つのキャンパス、そして約1万5000人の在校生のうち、現在、84カ国(地域)から約1600人の留学生が学んでいることなどの概要説明があった。

続いて、岩本洋子准教授(大学院統合生命科学研究科)が、多くの留学生が学んでいる総合科学部国際共創学科(IGS・Integrated Global Studies)について紹介。キャンパスの学食にはハラルフードの提供があることやお祈りの部屋もあるといった情報提供もあり、さまざまな国からの留学生に対して、きめ細かな受け入れ体制が整えられていることが紹介された。視聴者から「私はムスリムだが、広島大学がフレンドリーでダイバーシティを積極的に推進していることを知り、留学先を決めるにあたり重要な情報だ」とのコメントがあった。

ラボツアーでは、栗田雄一教授(大学院先進理工系科学研究科)が自身の研究室を案内し、人間拡張アシストデバイスの開発について解説。人の運動や感覚の機能・能力を拡張・向上させるデバイスを実際にデモンストレーションしながら説明した。さらに、同研究室におけるインドやメキシコの学生(博士課程、修士課程)からも自身の研究について

の紹介があった。

スベシヤルレクチャーでは、島田昌之教授(大学院総合生命科学研究科)が「Unlock Secrets of Gender within Sperm-Sperm Sexing Method for Animal Production」をテーマに講義。子どもが生まれる仕組みの解明・研究を行っている同教授の研究室は世界初、日本一の成果も数多くあり、現在、最先端研究として注目を集めている「家畜の雌雄産み分け技術」についての研究成果とインドで進行している「インドで乳牛を増やすプロジェクト」の紹介は視聴者の関心を集め、「私は生物学を専攻しているが、この研究は初めて知り非常に興味をもった」との感想が寄せられた。

続いて、タイ(IGS4年生)とインドネシア(博士課程)の留学生が日常やキャンパスライフを紹介。特に、「大学では勉強だけでなく、さまざまな国際交流イベントや地域との交流会があるのでとても楽しい」と語っていたのが印象的であった。留学生が自作したキャンパスライフビデオをみた視聴者は「広島大学に自分が留学したかのようなイメージがひろがり、留学の意欲が高まった」と興味を引いたようだ。

日本学生支援機構(JASSO)による日本留学制度説明後のQ&Aセッションでは、「留学前に日本語を話せないかダメか?」といった質問に対し、留学生からは「話せなくても大丈夫。IGSでは英語のコースもあるので心配ない」とのアドバイスがあった。さらに、卒業後の進路など様々な質問が寄せられ、参加者たちの関心の高さをうかがうことができた。

なお、イベントの収録動画は、「オンライン大学訪問」特設ページのアーカイブ(「さくらサイエンスプログラム」ウェブサイト)で公開している。広島大学の回(アーカイブ)は2月中旬に公開予定。



岩本准教授

金子副学長



島田教授

川合教授



栗田教授と留学生



クロージング